

市役所の窓口を訪れた人の手話を読み取り、内容を職員に伝える山根さん



手話を通じて健聴者と聴覚障害者の会話をつなぐ手話通訳者。通訳者として、双方の思いを伝える支援をしているのは山根さんです。

山根さんが手話に興味を持ったきっかけは、子供の通う保育園でした。耳の聞こえない保護者が手話で楽しそうに会話しているのを見た時に、自分も手話で話せたらと思ったそうです。



手話で思いを伝える 楽しさを広めたい

それから手話サークルに入り、手話を学びます。「少しの手話でも相手に言いたいことが伝わった時、すごくうれしかったです。言葉が増えればもっと会話が楽しくなると思いました」とサークル活動に積極的に参加しました。手話の勉強に励んだ山根さんは、資格を取得し、22年前に岩国市の手話通訳業務を担う手話通訳者になりました。

しかし実際に通訳してみると、会話と通訳は全く違うことを実感しました。「言葉そのまますべて手話にすると聴覚障害者が別の意味で捉えることがあります。手話の読み取りでも同じことがあります」。

手話通訳で大切なのは、ただ機械的に手話に変換するのではなく、話し手が伝えたいことを理解し、聞き

Vol.125

山根 かおるさん
(南岩国町在住)

岩国市設置手話通訳者。公共施設や講演会など、健聴者と聴覚障害者とのコミュニケーションが必要な場で手話通訳を行う。手話通訳士の資格を持ち、相続問題など高度な通訳案件にも対応する。

手に伝わる言葉に変えることだと話す山根さん。相手によって伝える言葉を使い分けることを心掛けています。

「手話通訳を続ける中で、自分は伝えたいつもりでも実は相手に伝わっていないことが今までもあったのではないかと気付きました」。手話通訳に限らず、普段の会話でも伝え方について真剣に考えるようになったそうです。

手話講座では講師も務め、手話の型を覚えやすくするために由来を説明し、手の動き以外にも感情の表現には顔の表情をしっかりと付けるなど、相手に伝わる工夫をする大切さを教えています。

「音の無い世界は私たちが思う以上に情報量が少ないため、人と人とのつながりが重要になります。聴覚障害者が安心して一人で外出できる社会になるよう、手話で思いを伝える楽しさを多くの人に知ってもらい、手話ができる人を増やしていきたいです」

※13ページに「聞こえ」に対する支援制度について掲載しています



耳の聞こえない人と一緒に、健康で手話を続けるための学習会を開催している



手話奉仕員養成講座では、楽しい雰囲気の中で手話の型を丁寧に教える

